発刊にあたって

過去の歴史から学ぶ

福生市長　田村匡雄

市制一五周年にあたり、このような市史研究誌の発刊をみることができ、大変喜ばしく思います。

武蔵野台地の西の端に、私たちの先人が居を構えて以来、その愛郷心と幾多の英知が、この福生を発展させてまいりました。その足跡が刻まれた福生の歴史は、私たちの貴重な財産であり、誇りでもあります。祖先の尊い経験を知ることは、私たち市民にとりましても、また地方自治を進めるこれからの長い道のりのうえでも、最良の指針になるものと思います。

福生の歴史・自然・文化などをまとめたものとして、昭和三五年に編さんされました『福生町誌』がございますが、以来、二〇有余年を経まして、その間、いろいろな歴史的事実が明らかになり、また史料などが相次いで発見されました。そこで、新しく『福生市史』を編さんしようという気運が盛り上がり、昭和五七年から、市史編さん事業に着手いたした次第です。

現在、市史の編さんは多くの市民の方々から資料の提供などの協力を得て、着々と進められていますが、このたびの研究誌も、これを通して広く市民が郷土の理解を深め、編集専門委員

や市内外の有識者と市民とが忌憚なく意見を交換し合い、交流する場としての役割を果せれば、喜ばしいと思っております。いろいろな人が、郷土の過去について学び、話し合い、それが福生の未来を展望することに結びつくとき、私は、福生の将来には、環境を大切にした豊かな社会が開けるものと信じております。

福生市は、昭和四五年の市制施行以来、市を取りまく状況は目まぐるしく移り変わり、現在は、出生率の低下と高齢化、あるいは高度の技術革新など、各分野での様々な変化が急速に進んでいます。

このような時勢の中にあって、何よりも心の糧となるのが、先輩諸氏の教えでございます。「温故知新」と申しますが、激動の中においても基本となる理念や方針、それに取り組む姿勢は、過去の歴史や多くの方の意見に教えられる事が多いのです。

この研究誌を糸口として、市史に対するご理解が一層深まることを願い、市史編さん事業に深いご理解をいただいている議員各位並びに市民の皆様に感謝申し上げまして、刊行のご挨拶とさせていただきます。

昭和六〇年七月